

理事長挨拶



学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎

戦後、創立者加計勉名誉理事長は、一面の焼け野原となった広島の中で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

学園創立50周年を目前に控え、平成21年度は、これまでの50年を振り返り、創立の原点から、将来に繋げるための礎を築く元年とする為、「教学改革の推進」、「留学生受入れ体制の強化」、「縦横の連携促進」を方針として、各設置校において事業計画を策定し、その達成に努めました。

「教学改革の推進」については、平成22年度に向けて倉敷芸術科学大学や岡山理科大学附属高等学校において、アニメやマンガのコースを設置したり、千葉科学大学危機管理学部に航空・輸送安全学科を設置するなど、各設置校にて、時代のニーズを先取りした改組に取り組むとともに、FD活動を通して、高大連携や教育研究内容の改善に取り組みました。また、真庭市との包括協定をはじめ、各設置校において、地方自治体や企業等外部団体との連携にも力を入れました。

「留学生受入れ体制の強化」については、平成22年度に向けて岡山理科大学と千葉科学大学に新たに留学生別科を設置し、倉敷芸術科学大学においても留学生別科の収容定員増を行うなど、3大学において留学生の受け入れ体制の充実を図り、留学生確保のため、海外支局長を中心に積極的に広報活動を展開しました。

「縦横の連携促進」についてですが、10年後の18歳人口の減少に備え、8設置校間の連携を強化し、学園独自の教育システム創りに向け、組織の枠を越えて知恵を出し合うとともに、財務改善会議を開催し、学園の財務体質の改善や、広報戦略、将来計画等について話し合い、これまでの学園の伝統を踏まえた上で、21世紀にふさわしい経営戦略を検討して参りました。

さらに、50周年記念事業に本格的に着手し、「岡山理科大学正門」や「電光掲示板」を設置しました。他の事業についても、当初の計画通り進めています。

以上のように各設置校とも、建学の理念の下、学園を更なる発展に導くため、各事業の達成に注力しました。